

事故防止及び発生時対応マニュアル

合同会社 つきおと

放課後等デイサービス そらおと

事故防止及び発生時対応マニュアル

1. はじめに

利用者が安心・安全にサービスを利用できるよう、事故を未然に防止することに努めるとともに、万が一事故が発生した場合には、迅速かつ的確に対応できる体制を整えることを目的として、本マニュアルを策定する。

2. 基本的な考え方

事業所は、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める。また、当法人の理念及び放課後等デイサービスガイドラインの方針に基づき、適切な支援を行うものとする。

その前提として、あらかじめ起こり得る事故を予測し、日頃から事故防止に備えること、また万が一事故が発生した場合においても、利用者の生命や身体に重大な影響が生じないよう、被害を最小限に抑えることが重要である。

そのため、事故が発生した場合だけでなく、事故が発生しそうになった事例（ヒヤリ・ハット）についても事実関係を把握し、再発防止を最優先に取り組む。あわせて、職員と利用者との信頼関係を十分に築き、利用者一人ひとりの特性に応じた支援を行うことで、事故やトラブルの発生リスクを低減する。

3. 事故防止

（1）利用者の特性の把握

利用者一人ひとりの障害特性や心身の状況を把握し、どのような事故が起こり得るかを予測する。職員は対人援助技術の向上に努めるとともに、ミーティング等を通じて情報や支援方法を共有し、最も効果的な対応ができるよう努める。

（2）風通しのよい職場づくり

事故防止対策は、すべての職員が共通認識を持って取り組むことが重要である。日頃から現場の課題を明確にし、職員間で意見を出し合いながら対応策を検討する。また、各職員は一人で判断せず、必要に応じて他の職員や管理者に相談するよう心がける。

（３）家庭とのコミュニケーション

利用時には、事業所からの一方的な説明に終始することなく、家庭との双方向のコミュニケーションを大切にする。あらかじめ想定されるリスクについても説明し、十分な理解を得るよう努める。

（４）事業所内外の環境整備

①利用時間外

- ・物品やおもちゃ等に破損がないか確認し、危険がある場合は修理又は撤去する。
- ・はさみや包丁など、けがの危険性が高い物品は適切に管理する。
- ・利用者の特性に応じた環境設定を行う。
- ・天候や気温を事前に確認し、特に夏季は熱中症に注意する。

②利用時間中

- ・衝動行為やパニック等が見られる利用者については、行動をよく観察し、危険となる物を遠ざける。
- ・おもちゃ等が散乱している場合は、転倒やけが防止のため片付けを優先する。
- ・外出時は、利用者の特性や職員との関係性を踏まえた支援を行う。
- ・水遊びの際は、危険性の高い利用者には必ず職員が付き添い、その他の利用者についても目を離さない。
- ・利用者への言葉遣いに十分配慮する。
- ・注意が必要な場合は、理由と望ましい行動を具体的に説明する。
- ・無断外出の可能性がある利用者については、所在を常に把握し、外出した場合は同行する。人手不足の場合は、その旨を説明し理解を得る。
- ・誤嚥の危険がある利用者については、食事や遊びの際に特に注意し、見守りを徹底する。

（５）食物アレルギー

食物アレルギーのある利用者については、事前に情報を把握し、ミーティング等を通じて全職員に周知徹底する。

４．個人情報の管理

- ・個人記録や連絡先一覧は、鍵付きキャビネットで保管する。
- ・利用者及び法人に関する情報が含まれるデータは、原則として持ち出さない。
- ・会議等で情報を持ち出す場合は必要最小限とし、終了後は速やかに所定の場所へ戻

す。

- ・パソコンやスマートフォンには必ずパスワードを設定する。

5. 事故発生時

(1) 傷病者の発見

緊急時対応フローチャートを参照し、傷病者の状態に応じた適切な対応を行う。

(2) 行方不明

利用者の特性から行動範囲を想定し、概ね20分程度捜索を行う。発見できない場合は、直ちに110番通報及び家族への連絡を行う。

6. 報告

(1) 保護者への報告

保護者への報告は、第1報を含め、正確かつ速やかに行う。

「いつ・どこで・だれが・どのように・なぜ・どの程度のけがか・現在の対応状況・保護者に依頼したい事項（受診の承諾、迎え、病院での合流等）」を分かりやすく伝える。

(2) 報告書の作成

・状況を最も把握している職員が、滋賀県障害福祉課指定様式に基づき報告書を作成し、管理者を通じて提出する。

- ・ミーティング等で事故の要因や再発防止策を共有する。